春未だ浅き曙 平心和ゎ の光輝 ける

白はくやら

の華乱れ

とぶ

久を返れ 彩色られ行く青春 綾なす紫雲を分け出 らかに歌はなん の迷夢を求めつつ の でてて

聖さき 思される 静っか 楡林に鐘はなり響く w かね かね の迪を恵ぬれば に迫る此の夕べ 都に寂寥の

馬橇の鈴 の音も絶えし

凍るれ 雪の大路を歩みつつゆき おおじ あゆ 声をかぎりに寮歌うたふ のみ いな揺か して

寮に 庭は

に年経るアカシヤの

夏の窓辺に書よめば

陽光燦然乱れ入るようこうさんぜんみだ

床しき薫香漂 ひてゅか かをりただよ

蝦夷の 昔 にいたる哉ダを で もかし

つか心懐の極みなく

-は 高たか のかなたへ消えて行く く冴ゆる夜ょ 0

るも

Ŧi.

高が たぎる生命を託 きっ 理り 想 と 「純糖」情

月下に酌むや楡の宴 情熱のかがり火打ち囲み ざや謳歌へん記念祭 れ集ふ若人の しつつ

情 に

金景洙 君 作曲 広瀬:

君

作歌